

新しい価値と本質を提案するプレミアムマガジン

SEVEN HILLS

「セブンヒルズ・プレミアム」

2011 November
Vol.025

11

特集

Exciting Singapore

エキサイティング シンガポール

アートを感じるリゾート
シンガポールのセレブリティ

TRAVEL
南米ペルー、エクスクルーシブな旅

SPECIAL
世界の特選不動産



Part.1 アンデスの秘境と神秘の世界遺産を往く

Part.2 アマゾン・ラグジュアリークルーズ





Part.2 M/V ARIA by Aqua Expeditions

アマゾン・ラグジュアリークルーズ
地上最後の楽園に浮かぶスターホテル

アクア・
エクスペディションズ

アリア号

アマゾン唯一のラグジュアリーシップとして、
就航後たちまち代表的なトラベルジャーナリストたちから
高い評価を受けたアクア・エクスペディションズの「アクア号」。
アマゾンに浮かぶファイブスター・ブティックホテルとも
言われるアクア号の姉妹船「アリア号」が、
2011年の夏、待望の就航を迎えた。
この新しいラグジュアリーシップは、
大秘境アマゾンを漂いながら優雅に過ごす
エクスクルーシブなひと時を約束してくれるだろう



アマゾン川の壮大な夕暮れの中を漂うアリア号。
そこはパーフェクトな非日常の世界だ

アリア号を愉しむ

ラグジュアリー・アマゾンクルーズ先達アクア号を引き継ぐ
アリア号の洗練されたスターホテルクラスのサービスとファシリティは、
特別な旅の気分を高揚させてくれる。

ゲストルーム。天井からフロアまで全画面で、アマゾン川を独り占めた気分



バー付きのオブザベクシ
ョン・ラウンジは両側が全画
面窓で、開放感あふれるス
ペース。家族でもゆったりと
くつろげる広いソファがある
©Hiro Matsui

ミニマリストティックで
ハイデザインな船内

アリア号は船長45m。ゆったりとした空間で
ミニマルさの中に機能美を備えた現代的なデ
ザインだ。インテリアはベルーの建築家ホルデ
イ・ブイダが手がけた。部屋は全スイートの16
室で、32名までが乗船できる。部屋は天井か
ら床まで一面が窓になっており、アマゾン川
の風景が1つの壁を成しているよう。シャワール
ームと洗面台は清潔感のあるホワイトで統一
され、船内の限られたスペースを効率的に使
える工夫が随所になされている。

アマゾン川を眺めながら
ワールドクラスのダイニング

船上食は、アメリカ、イタリアで学びアンデス
の伝統を融合させた独創的な料理で絶賛を
浴びるベルーのトップ10シェフ、ペトロ・ミゲル
スキアフィーノ氏のディレクションによるヌーベ
ル・ベルヴェイアン・キューズ。朝食・昼食はビュ
ッフェ形式で豊富な料理が用意され、コース
またはアラカルトディナーでは、日替わりでセレ
クトされる南米産のワインとともにワールドクラ
スのダイニングを愉しむことができる。



上/オブザーベーション・デッキにはジャグジーが備え付けられている。夜はライトアップされムード満点
下/船の最上層の天棚にはデッキがあり、ほぼ360度を見渡すことができる



ほぼ3食をアリア号で摂るため、飽きのこないメニューが工夫されている



左/ポートエクスペディションの際はクルーが笑顔で見送ってくれる
右/ネイチャーガイドは、旅程で最も長い時間を共にするスタッフだ。自然をよく知るレンジャーであり、紳士なクルーでもある

チームワーク抜群のクルー、アットホームなホスピタリティ

アリア号では、レストランスタッフ、クリーニングスタッフ、ネイチャーガイド、メディカルチーム、オペレーティングチームはじめ28名のスタッフがゲストを厚くもてなしてくれる。しっかりとしたチームワークでゲストをサポートし、またホスピタリティあふれる。アットホームな雰囲気ゲストを安心させる。複数の役を兼ねていることもありスタッフの対応が柔軟なところもアリア号ならではの。

特に多くの時間を共に過ごすネイチャーガイドは、レンジャーとしてゲストの安全を守り、自然をガイドしてくれ、パトラーのようにきめ細かくゲストに気を配ってくれる。下船の頃にはすっかり気の置けない仲間だ。

アマゾンジャングルを堪能する

アリア号のアクティビティは主に
モーターボートでのアマゾンジャングル探検。
地上で最も豊かな生態系が織り成す、
美しさ生命のスペクタクルがそこには待っている

アマゾンジャングルをボートで進む。鳥たちが一斉に飛び立つ様は壮観



パカヤ・サミア自然保護区で見られる動物たち。特に鳥類が豊富だ

ボートエクスペディションで見た動物は、リストでチェック。コース開始だけでもこれほど膨大な種類の動物が生息している



世界で最も豊かな生態系のジャングルへ

アリア号の出発点ナウタ港と終点のイキートス港の間には広大な自然保護区が広がっており、そのジャングルをモーターボートで探検する「ボート・エクスペディション」が、アリア号での主なアクティビティだ。ネイチャーガイドの下、この「パカヤ・サミア自然保護区」の多様性あふれる生態系を体験する。

鳥たちがボートを追い越し、リスザルが樹上からもの珍しそうにこちらを眺め、水面ではカイマン(鱷)が水面を揺らし、ピンクドルフィンが飛沫を上げる。あちらこちらで絶えることなく聞こえる生命の息づかいに、この大自然が持つ果てしない豊かさや深さを感じることができるだろう。



穏やかで波打っていないが、相当の水量が流れている

豊穣なる川、水の鏡

アマゾンには、「黒い川」と呼ばれる場所が多く存在する。マラニオン川もその1つで、水が黒いためにそう呼ばれる。黒色は泥ではなく、アマゾンのジャングルに堆積された落ち葉が腐植土となり、そのタンニンが染み出した色だ。黒色の水は、光を通さず反射させるため、景色が鏡のように水面に映り、神秘的な雰囲気を醸し出す。時に希少な「ピンクドルフィン」にも出会うことができる。



水面に出て呼吸するピンクドルフィン。顔を見るのはなかなか困難だ



左上 / イキートの沿岸部の水上スラムが広がる「ペラン」に暮らす子どもたち
 右上 / マナティ保護センターではマナティ保護についての学習と、幼マナティへの授乳体験ができる
 下 / アマゾン流域にあるインディナコミュニティ、リベルタッド村で医療活動を行うアリア号乗組員

アクア・エクスペディションズの社会活動

アクア、アリア号を運営する「アクア・エクスペディションズ社」は、常に危険に晒されている繊細なアマゾンの自然環境と、そこに暮らす人々の生活の保護に、強い決意と長期的責任をもって取り組んでいる。その一環として、自然保護活動プログラムへの常時参加のほか、アマゾン流域のコミュニティへの医療提供、自然環境悪化により減少しているマナティの保護プログラムに参加している。ゲストは、小さな贈り物やドネーションでこれらの活動に貢献することができる。

Aqua Expeditions

<http://www.aquaxpeditions.com>
 日本での問い合わせ、予約:
 インターナショナルクルーズ・マーケティング
 TEL.03-5405-9213
 E-mail: crulset@komjapan.co.jp
<http://www.komjapan.co.jp>